

# 東名古屋病院だより

平成29年4月発行 第67号



## 理 念

私たちは、医の倫理を守り、患者さんの気持ちを尊重し、より質の高い医療を提供します。

## 基本方針

1. 患者さんへの医療内容の説明と患者さんの同意を医療の基本とします。
2. 地域に密着し、心の触れ合いを大切にした医療を提供します。
3. 常に自己研鑽に励み、医療人としての専門的知識・技術の習得に努め、皆様に信頼される安全で最新の医療を提供します。
4. 健全な経営を維持して療養環境の整備に努め、安心して快適に療養できる病院を目指します。

## 目 次

2 P : 巻頭言  
3 P : 病気とのつきあい方  
4 P : 看護部紹介  
5 P : 部署紹介  
6 P : 認定看護師育成研修

7 P : NHO PRESSについて  
8 P : トピックス (H29.4新採用職員)  
9 P : 地域医療連携室  
10P : 外来案内、外来診察担当医表



独立行政法人 国立病院機構  
**東名古屋病院**  
NATIONAL HOSPITAL ORGANIZATION  
HIGASHI NAGOYA NATIONAL HOSPITAL



〒465-8620  
名古屋市名東区梅森坂5-101  
TEL 052-801-1151  
FAX 052-801-1160  
ホームページアドレス  
<http://www.tomei-nho.jp/>

## 気持ちのリセットとルーティンを自信に

薬剤部長 伊藤 誠紀  
(現 東尾張病院 薬剤科長)



いろいろなことが始まる春の季節になりました。あたたかくなってくると外に出るのも気持ちが良く、ついつい散歩でもしてみたくになります。毎日の適度な運動は心にも体にも良いので、ご自分のペースで出かけてみてはいかがでしょうか？

新しい気持ちでスタートする春ということで、気持ちのリセットとその方法について考えてみたいと思います。この病院だよりを手にとってみえるということは、何らかの形で「病」と関わっている方だと思います。「病」を抱えることは本当に大変なことです。そして辛いことです。できれば抱えたくありません。そしてその「病」自体は簡単にリセットできないことが多いです。

では気持ちはどうでしょう？気持ちだけは自分次第ですぐにリセットすることができると思います。とは言っても「病」を抱えているとどうしても気持ちが暗くなりがちです。そういう時、毎日の生活の中で自分を落ち着かせる方法を見つけてもっていることは大切な事だと思います。この薬があれば大丈夫。この先生と話すことができれば大丈夫。その病院に行けば大丈夫。などいろいろな方法があります。その中で毎日同じルーティン（決められた同じ動きのこと）の体操やりハビリをすることも、気持ちを落ち着かせたり、リセットしたりする方法の1つになります。プロ野球のイチロー選手のルーティンは有名ですよ。筋力トレーニングだったりストレッチだったりもいいと思います。

例えば私が健康のために毎日しているのは「あいうべ体操」という口の体操です。口呼吸を鼻呼吸にすることで、免疫力をアップして風邪にかかりにくくなったり、いろいろな症状の改善が期待できると言われていたものです。口を大きく開けながら

「あ・い・う・べー」というだけの簡単な体操です。この体操のおかげかどうかこの春までまだ風邪をひいていません。またいびきをよくかいて家内に迷惑をかけていた私ですが、これをするようになって「いびきが軽くなったね」と言われています。この体操が毎日のルーティンになって私の自信のひとつになっています。やり方はいろいろあるようですが、私のやり方を下のイラストで簡単にご紹介しています。ご興味のある方はご自分でも検索してみてください。

自分の健康の為のルーティンは効果が実感できれば何でもよいと思います。毎日それを続けることが自信になり、気持ちをリセットすることにも繋がると思います。

最後に当院薬剤部では以前より入院の患者さんのケアに力を注いでいます。外来の患者さんのお薬については院外処方箋を受け取る調剤薬局にお任せしており繋がりがあまりありませんでした。しかし、今は少しずつですが患者さんが入退院される時には病院の薬剤部と調剤薬局が連携して必要な情報のやりとりも行うようになってきています。このような連携は患者さんの治療の助けになっていると思います。

スタッフ一同これからも一丸となってよりよい薬剤部になるよう努力する所存です。どうぞ宜しくお願いします。



あ

①「あー」と口を大きく開けましょう



い

②「いー」と口を大きく横に広げましょう



う

③「うー」と口を強く突き出しましょう



べー

④「べー」と舌を突き出し下に出しましょう

# 病気とのつきあい方

## 狭心症について



循環器内科医長 野田 浩範

心臓は全身の臓器や筋肉に酸素と栄養を運ぶために血液を送り出しています。心臓自体の筋肉にもこれらが必要でありこの役割を担っているのが冠動脈と言われる血管です。心臓から出ている大血管である大動脈の根元から左右に分岐、枝分かれし心臓の筋肉に血液を供給しています。狭心症はこの冠動脈内の内腔が狭くなるのが原因で生ずる疾患です。典型的な症状は左前胸部痛ですが、左肩、首、顎の痛みとなって現れることもあります。高齢者、糖尿病の方には症状がはっきりしない場合もあります。狭心症は病態により分けられ治療法も異なります。

### 1) 労作性狭心症

運動時には心臓の仕事量が増加します。心臓の筋肉に必要な酸素、栄養も増えますが、これが不足し一時的な虚血状態となると胸部などに症状が出現します。原因は動脈硬化による冠動脈内腔の狭窄です。症状の持続時間は長くて15分程度であり安静、ニトログリセリンの使用により改善します。

### 2) 冠攣縮性狭心症

冠動脈を構成する血管内皮細胞には拡張因子を分泌する機能がありますが、この機能が動脈硬化により重度に障害されると血管に痙攣発作が起きることがあります。これにより血管の内腔が狭窄または閉塞すると心臓が虚血状態となり狭心痛が発生します。発作は夜間から明け方に多く、運動とは無関係に発作が起きるといった特徴があります。

### 狭心症と心筋梗塞の違い

冠動脈が完全に閉塞すると心臓の筋肉が壊死します。この状態が心筋梗塞であり長時間の強い痛みを伴い合併症による死亡率が高く緊急の治療が必要です。狭心症状悪化の前駆症状が認められる場合もありますが突然発症するケースが多いです。

### 狭心症の原因

冠動脈の動脈硬化が原因です。

狭心症になりやすい危険因子には

1. 高血圧
2. 糖尿病
3. 脂質異常症
4. 肥満
5. 喫煙
6. 加齢
7. 家族歴

があります。動脈硬化の進行を予防するには生活習慣の改善や薬物治療の介入が必要となります。

### 検査

#### 1. 心電図

非発作時の心電図では異常が認められないことが多い為、運動をした前後の心電図所見を比較することが行われます。主に労作性狭心症を診断する目的で行われます。

#### 2. ホルター心電図(24時間心電図)

携帯型の心電図装置で日常生活中心電図記録を行います。発作時に心電図を記録することが目的です。

#### 3. 冠動脈CT

冠動脈をターゲットとした造影CT検査です。以前は冠動脈の画像診断においてカテーテル検査が中心的な役割を果たしてきましたが、CT装置の性能が良くなり近年盛んに行われるようになってきました。病変部位の石灰化が強い場合は狭窄評価が困難な場合があります。

#### 4. 心臓カテーテル検査

局所麻酔を行った後に体内にカテーテルを挿入、冠動脈内に直接造影剤を注入し撮影する検査です。

### 治療

冠攣縮性狭心症に対しては薬物治療が行われますが禁煙を含めた生活習慣の改善がより重要です。

労作性狭心症に対しては検査で明らかとなった冠動脈所見と合併している疾患により選択される治療法が異なります。薬物治療が基本ですが、狭窄が高度である場合は内科医によるカテーテル治療か外科医によるバイパス手術のどちらかが行われます。治療後も再発予防のためこれに関しても薬物治療、生活習慣の改善、維持が必要です。最後にですが軽労作でも発作が起き易くなり、発作時間が延長、改善までに長い時間がかかるようになったといった症状が認められた場合は心筋梗塞発症の危険が高い状態ですので早期に医療機関へ受診することが必要です。

## 看護部紹介



西4階病棟 看護師長 松下 剛

西4階病棟は、神経内科や呼吸器内科、整形外科の患者様が入院される混合病棟です。また、病気の治療だけでなく、リハビリテーションを目的に入院される患者様も多くいらっしゃいます。入院される患者様で多い疾患は脳梗塞や脳出血、腰椎圧迫骨折や大腿骨頸部骨折、誤嚥性肺炎などです。脳梗塞や脳出血では麻痺がおり、手や足がうまく動かない、うまく喋れない、飲み込めないといった症状が出たりします。大腿骨頸部骨折や腰椎圧迫骨折では、長期間ベッド上安静にしていなければならない場合もあり、筋力が低下してしまい、うまく歩けなくなることもあります。そのため、治療が終わった後もリハビリテーションが必要な患者様が多く、理学療法士や作業療法士、言語聴覚士といったリハビリテーションを行うセラピストと協力して患者様のお世話をさせていただいています。

当院には脳梗塞や脳出血、大腿骨頸部骨折後にリハビリテーションを集中して行う回復期リハビリテーション病棟があります。リハビリテーションを目的として入院される患者様も多くいらっしゃいますが、患者様の状態によっては、集中してリハビリテーションを行うことで身体的負担が大きくなり、逆に体調を崩してしまう患者様もいらっしゃいます。患者様の体調に合わせて、時間をかけてリハビリテーション

を行う必要がある場合は、西4階病棟に留まったままリハビリテーションを継続し、退院を目指します。

入院中は病棟での生活状況を主治医やセラピストに伝え、情報を共有させていただいています。これは、退院後の生活を考えてリハビリテーションを行っていくために必要なことで、その結果、患者様が不安なく退院できるよう努めています。また、退院の時期が近づくと、ご自宅で過ごされるのか、施設に入所されるかは患者様の回復の状態によって変化してきます。ご家族様に対して、どのような福祉サービスが受けられるか、どのような施設があるかなど、退院後のご負担を少しでも軽減できるよう考え、福祉サービスの利用方法や入所できる施設情報をケースワーカーとともに提案させていただいています。

このように西4階病棟では、患者様が安全、安楽に生活できるよう、日常生活の援助を行うだけでなく、退院後の生活も考えて、患者様を取り巻くご家族様とも深く関わらせていただいています。患者様が少しでも安心して、笑顔で退院していただけるよう、看護師長を含め総勢21名の看護師が今後も協力し合って、患者様やご家族の希望に添えるよう頑張っていきたいと思っています。

## 部署紹介

### 放射線科の紹介



診療放射線技師長 東山 隆志

当放射線科は診療放射線技師7人（男性5人、女性2人）、放射線助手（女性1人）の8人と放射線科医長（兼任）である犬飼晃先生（統括診療部長）を筆頭に、画像診断を担っていただいている乳腺外科診療部長の遠藤登喜子先生（放射線画像全体を通しての読影補助）、村田勝人先生（月・木 病診連携担当）、櫻井圭太先生（月 神内MRI、CT、アイトープ画像診断）の放射線専門医の先生方に支えられています。

また緊急読影診断のために遠隔画像診断サービス会社との契約も交わしています。

我々放射線科スタッフは患者様に対して常に丁寧でわかりやすい検査説明を行い、患者満足度の向上を図り、医療事故防止と被ばく線量の低減に努めることを心掛けて業務に励んでおります。また高額医療機器（CT、MRI、アイトープ検査）の共同利用にも力を入れており、近隣病院からの先生より依頼を受けて各種検査と当院の放射線科専門医による読影レポートの作成を行っています。地域医療連携につきましては、連携病院の先生方や患者様のニーズに応えられるよう日々改善に努めています。

当放射線科での業務内容としては放射線診断と核医学検査（アイトープ検査）があり、（放射線治療は行っておりません）現在は合計16台の放射線診断装置とMRI装置を保有しております。このたびの放射線科紹介では、H25年の東名だより（放射線科紹介）で掲載された乳房撮影装置を取り上げます。この装置は予定通りH25年の秋に導入され3年目を迎えます。装置の種類としてはトモシンセシス（3D）とマンモトーム兼用型（2D 組織採取用）の2台で、撮影に際して被ばく線量も少なく、腫瘍の描出にすぐれ乳がんの早期発見・早期治療が実現できる最新の装置です。また検査担当者はマンモ撮影認定技師資格を取得した女性技師2名

を配置しており、患者さんにやさしい検査体制を実現しています。



乳房撮影装置（第4撮影室）



私たちは「患者さんが安心して検査ができる環境であること」、「適切な診断ができる画像を提供すること」を常に念頭に置いて業務に向かっています。

#### トモシンセシスとは？

従来の超高精細画像に加えて、1mmごとの断層画像が得られる「トモシンセシス」という原理に基づいた装置になります。

トモシンセシス(Tomosynthesis)とは、Tomography(断層)とSynthesis(合成・統一)の2つの意味から作られた造語であり、1回の断層撮影で任意の高さ裁断面を再構成する撮影技術です。乳腺との重なりで、従来の画像で観察し難かった病変が発見しやすくなっています。

#### マンモトームとは？

針を用いて小さな組織を採ることができる吸引式組織生検装置で、石灰化を主体とした病変の診断が精密に行えます。

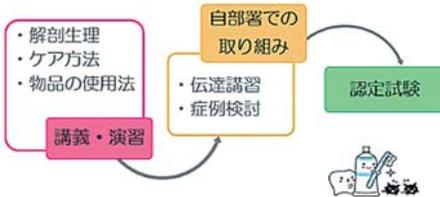
# 認定看護師育成研修

## 平成28年度「口腔ケア院内認定看護師育成研修」 を開講いたしました！



教育担当看護師長 藤谷 和美  
(現 鈴鹿病院 看護師長)

### 口腔ケア院内認定看護師育成研修



この研修は、口腔ケアの基本的な知識・技術を習得し、看護実践の場面で口腔ケアに関する質の向上を図ることを目的に新設された院内認定制度の研修です。研修内容は、歯および口腔内の基本となる解剖生理から口腔内のトラブルと対処方法、技術演習などを120分×5回の研修で習得します。その後、所属病棟の口腔ケアの質向上に働きかけます。そして、実践事例を振り返り、今後に活かすところまでをプランニングしております。

講師は、当院の口腔外科奥村医師、大和田・都築摂食嚥下障害看護認定看護師、片桐歯科衛生士です。専門性の高い知識・技術を習得することができ、充実した研修となりました。研修最終日には、筆記試験・実技試験を行い、合格者に「口腔ケア院内認定看護師」として認定証が交付されました。

患者さんのベッドサイドに伺いますと、「話しやすくなった」「食べる量が増えた」また、お口はさっぱりしましたか？の問いかけに“満面の笑み”が返ってきました。話せるお口、食べられるお口、当たり前になっていたことが、できなくなっている方がおられます。口腔ケアを定着させ、患者さんのもつ力を生かし、“その人らしく生きること”をサポートしていきたいと思えます。また、医学的にも誤嚥性肺炎や認知症・心臓病・糖尿病予防など様々な疾患の予防効果も報告されています。心身共に豊かな生活がおくれるように、口腔ケアは、とても重要なケアといえます。

- \* 2日間実施
- \* 講習前後でアンケート実施
- \* スタッフに資料を配布

- \* チームカンファレンスでの呼びかけ
- \* ついでにケアの促し
- \* ベッドサイドにケアの手順を掲示
- \* 口腔ケアをスタッフと一緒に実施
- \* 担当STとの連携



初年度は、9名の院内認定看護師が誕生しました。

口腔ケア院内認定看護師となられた看護職員は各病棟で指導的役割を果たし、口腔ケアの質向上に努めることを期待されております。

東名古屋病院看護部は、“患者さんが安心して療養していただける質の高い看護をめざします”を理念として、今後も教育企画・運営に努めてまいります。

## NHO PRESS～国立病院機構通信～について



東名古屋病院は、国立病院機構（NHO：National Hospital Organization）という 143 の病院からなる国内最大級の病院ネットワークの病院です。

国立病院機構（NHO）という病院ネットワークが、どのようなグループでどのような活動をしているのかを紹介する『NHO PRESS～国立病院機構通信～』を発行しています。

外来ホールや病棟入り口に設置していますので、ぜひご覧になってください。

なお、ホームページに最新号と過去のものに掲載していますので、そちらもぜひご覧になってください。「NHO PRESS」で検索してください。

NHO PRESS

検索



QRコード

## トピックス

平成29年4月の当院の新採用職員です。

看護師19名、薬剤師1名、栄養士1名、理学療法士1名、作業療法士2名、事務職員1名、総勢25名のフレッシュな新人が採用となりました！皆様よろしくお願いたします。



## 地域医療連携室

### 地域医療連携室の役割



経営企画室長 濱口 正

皆様こんにちは、今回は地域医療連携室の役割について紹介させていただきます。

当院の診療機能は、急性期医療、回復期医療、慢性期医療で神経難病や結核、重度心身障害児(者)などの専門医療も行っています。

地域医療連携室のスタッフは、地域医療連携室長、副地域医療連携室長、地域医療連携係長、退院調整看護師長、退院調整看護師、医療ソーシャルワーカー4名、事務職員3名の12名で構成されています。

業務内容は、かかりつけ医や他の医療機関からの紹介状管理、予約受付、患者さんの退院調整、患者相談、他の連携病院等との関係構築や広報活動に至るまで多岐にわたっています。

予約受付では紹介患者さんを受け入れるために、医療機関の先生方との調整を行うなどして、スムーズに治療が受けられるよう支援しています。退院調整では、退院後もご自宅や施設などで治療を継続するなか、退院後も安心して治療が受けられるよう医療や看護の得意な専門家が退院支援を行っています。患者相談では、病気やケガ等がもとで起こった社会的、心理的、経済的な不安や心配事等について相談を受け、問題解決の助言、調整を行い、安心して療養生活が過ごせるよう支援を行っています。

かかりつけ医の医療機関とは病診連携ネットワークシステムを構築して紹介、予約管理を

行っており、毎年3月には開業医の先生方を招いての学術講演会を開催しています。一方で近隣病院との病病連携については、連携病院協議会を開催して「顔の見える連携」を目標に関係構築を図っております。また、患者さんの入院中などのカルテが一部閲覧できる連携システム「ぷらむメディネット」を平成25年7月に構築し、医師などが情報を共有することでスムーズな転院が可能となっています。

広報活動としては、定期的に広報誌「東名だより」を発行し、地域住民を対象とした市民公開講座と健康フェアを開催する等、地域への情報発信、啓蒙活動を行っています。

以上のとおり地域医療連携室の役割とは、地域の医療機関や様々な保健・福祉サービス機関と連携して、患者さまに切れ目のない医療・看護・介護サービスが提供できるよう支援・調整する窓口として大変重要な役割を担っています。

2025年に向けて病床の機能分化が進む中で、地域包括ケアシステムを構築するためには更なる病病・病診連携が求められており、これらの目的を果たすには地域医療連携室の役割が益々重要となってきます。引き続き、患者さまに効率的で満足のいく医療サービスを受けていただけるようスタッフ一同努力して参りますのでよろしくお願い申し上げます。

# 外 来 案 内

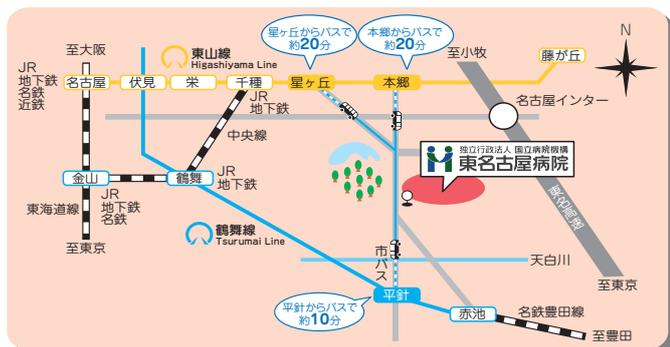
- 診療受付時間 午前8時30分～午前11時まで（緊急の場合はこの限りではありません）
- 診療開始時間 午前9時～
- 休 診 日 土曜日、日曜日、祝祭日、年末年始（12月29日～1月3日）
- 初診時の特別料金 他の医療機関等からの紹介ではなく、直接当院に来院された患者さまは、初診にかかる費用として、2,160円（税込）をいただいております。ご了承下さい。  
ただし、緊急その他やむを得ない事情により他の医療機関からの紹介によらず来院された場合にあってはこの限りではありません。

## 外来診察担当医表

（平成29年4月1日現在）

診療科	月	火	水	木	金
呼吸器内科 (初診)	八木 光昭	福井 保太	林 悠太	山田 憲隆 中川 拓 第1・3 第2・4・5	垂水 修
	垂水 修	清水 信	福井 保太	八木 光昭	林 悠太
	中川 拓	山田 憲隆	中川 拓 小川 賢二 第1・3 第2・4・5	小川 賢二	
呼吸器感染症専門外来		小川 賢二 第1・3 13:30～16:00			
循環器内科	三井 統子	野田 浩範	三井 統子	野田 浩範	西村 和之
神経内科 (初診)	犬飼 晃	横川 ゆき	橋本 里奈 片山 泰司 第1・3・5 第2・4	饗場 郁子	齋藤由扶子
	饗場 郁子	片山 泰司	犬飼 晃	齋藤由扶子	榊原 聡子
	横川 ゆき		榊原 聡子	橋本 里奈	
消化器内科	横井 美咲	高橋 宏尚	高橋 宏尚 小林 慶子 (交代制)	小林 慶子	高橋 宏尚 小林 慶子 (交代制)
呼吸器外科			山田 勝雄		
外科・消化器外科	渡邊 正範	加藤 俊之 野浪 敏明	和泉 孝明	永田 博 加藤 俊之	渡邊 正範
肛門外来	渡邊 正範	加藤 俊之	和泉 孝明	和泉 孝明	渡邊 正範
乳腺外科	遠藤登喜子 林 幸枝 8:30～11:00, 13:30～15:30	遠藤登喜子 8:30～11:00, 13:30～15:30	遠藤登喜子 8:30～11:00, 13:30～15:30	小川 弘俊 13:30～15:30	遠藤登喜子 角田 伸行 8:30～11:00, 13:30～15:30
乳腺・内分泌外科				今井 常夫	
整形外科	金子真理子		祖父江康司	金子真理子	吉田 愛加
リウマチ科			祖父江康司		
脳神経外科					竹内 裕喜
泌尿器科	岡村 菊夫	青田 泰博	青田 泰博 岡村 菊夫 午前 13:30～15:30 女性泌尿器科外来	青田 泰博	岡村 菊夫
精神科					宇佐美 敏
総合内科		峯村 信嘉 横井 俊介		内海 眞	
血液・腫瘍内科	清水 一之	朴 智栄	清水 一之	神谷 悦功 小椋美知則 午前 午後(隔週)	神谷 悦功
禁煙外来		(予約制) 13:30～14:30			
内分泌内科					深見亜也子
小児科	濱口 典子	濱口 典子	濱口 典子	濱口 典子	濱口 典子
皮膚科	加藤 愛	加藤 愛	加藤 愛	甲中 伸 第4 12:45～14:45	加藤 愛
歯科口腔外科	奥村 秀則	奥村 秀則	奥村 秀則	奥村 秀則	奥村 秀則
ドック	外来人間ドック (予約制)				
耳鼻いんこう科		伊藤 陽子	伊藤 陽子	伊藤 陽子	

- ※予約制は再来診の場合のみです。初診の場合は通常どおりの診療となります。
- ※救急診療は、時間外・休日も行っていますので、時間外窓口にご連絡下さい。(052-801-1151)
- ※当院では、隔週月曜日に外来人間ドック（予約制）を行っていますのでご利用下さい。
- ※セカンドオピニオン外来（予約制）を行っていますのでご利用下さい。
- ※小児科・禁煙外来は完全予約制です。
- ※女性泌尿器科外来・乳腺外科・血液・腫瘍内科 午後（隔週）の受付時間は15:30までとなっております。



- 地下鉄東山線星ヶ丘駅下車
  - ・市バス③番のりば 東名古屋病院行き } 約15～20分 東名古屋病院にて下車
  - ・梅森荘行き
  - ・星ヶ丘よりタクシーにて約15分
- 名鉄豊田新線・地下鉄鶴舞線赤池下車
  - ・タクシーにて約8分
- 地下鉄鶴舞線平針下車
  - ・市バス①番のりば本郷行き約10分 東名古屋病院にて下車
  - ・タクシーにて約8分
- 地下鉄東山線本郷駅下車
  - ・市バス①番のりば地下鉄平針駅行き15～20分 東名古屋病院にて下車
- 東名高速道路名古屋インターより車で約20分